

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	・文章の展開に即して内容を捉える力。	・ノート指導、作文指導等、「書く」機会を意識的に増やすよう心掛ける。 ・基礎的な知識である文法や漢字の学習を積み重ねるとともに読書に親しみ、語彙力をつけていく。	成果・具体策については達成できた。 課題・低位の学力の生徒に対して最低限の基礎知識をつける。
社会	・複数の出来事が結びついて、地理的な場所の特徴、または、歴史的出来事がおこっていることへの理解。	・一つの地理的な特徴、歴史的出来事がさまざまな要素から成り立っていることを理解させる。	・現代が過去の繋がりの中で結びついていることを意識した授業を展開できた。生徒の中にどれだけ理解が深まったかは疑問も残る
数学	・基礎基本の内容が不十分。 ・既習事項を活用して問題解決する力。	・授業内での反復確認。 ・課題解決問題を1時間でじっくり考えさせる。	・粘り強く取り組み、理解も高まった生徒が多くみられたが、基礎基本が理解できていない生徒には中学数学は非常に難しい課題である。
理科	・自然現象に対してや、実験観察等で得られた結果に対しての、科学的なものの見方や考え、考察する力。 ・定量的なものの考え方。また、化学式や化学反応式についての正しい知識理解と、その活用の仕方。	・実験観察時のワークシートなどで、その現象のポイントを明確にし、理論立てた考察がしやすいようにする。 ・既習事項の振り返りや問題練習などを多く取り入れ、実践的な学習を重ね、理解を深めていく。	・さまざまな現象を科学的根拠に基づいて考察し、文章やグラフ等でまとめようとする姿勢が見られた。振り返り・積み重ね学習にも真剣に取り組んだが、定量的な思考は苦手とする生徒が多かった。
音楽	・新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、歌唱を伴う授業の際の制限や、マスク着用での歌唱における、生徒の発声法の確認の不十分さや、生徒の表現意欲低下。 ・クラス単位でしか歌ったことのないことにより、校歌などの歌唱意識の低下。 ・ICT機器を活用した学習、取り組みの研究。	・歌唱に関しては、生徒間の距離を保ち歌唱すること。 ・模範的な合唱の動画を鑑賞することで、より良い発声法を考えさせ、理論的により良い発声法を理解させる。 ・ICT機器を用い、表現の探求や、幅広い鑑賞教材を授業で活用する。	・オンラインで作成する作曲ツールが、オンライン学習で非常に有益なソフトであった。生徒の創作の意欲が高まり、音楽に関する興味・関心が非常に高まった。 ・合唱・歌唱への取り組みが全く積み重ねられていない。
美術	制作活動にきちんと取り組む生徒が多く、集団としても落ち着いた環境の中で活動する積み重ねをしてきた。昨年度は、生徒同士の作品の交流の場が限られてしまい、高い水準で完成された作品のイメージがなく、平均的な難易度で満足してしまう傾向にある。	一見難しそうに感じられる構想でも、手順を明確にし確実に到達できる道筋を提供し、完成へ導く。そのために視覚的な資料の一つとして今年度導入されたタブレットの画面も大いに活用したい。 また、授業として美術を学習する機会が今後減っていく生徒に向けて、生涯美術に触れたり愛好したりする基盤になるものを残したい。	最終学年として、少しでも難しいものへ、工夫を凝らした構想を練るなど、自己を高めようとする様子が見られ、作品にもその成果が表れた。昨年に引き続き作品を展示する機会がなくなったが、学年内では制作後の取り組みにおいて、互いの作品を鑑賞する機会が持てた。
保健体育	・全体的に体力レベルが低い。 ・自己や他者の課題点を解決するための思考力 判断力 表現力が低い。	・授業内で補強運動などを行い、体力の向上に努める。 ・課題を明確にして、仲間と教え合いの機会を増やすことで思考力 判断力 表現力を育成する。	・最終学年として、体力の向上が見られた。 ・授業の課題を提示し、教え合いの機会をつくることで活発な課題解決につながった。
技術・家庭	(技術) ・時間と自分の力量を把握したうえで作業を進めることができない生徒がいる。 ・安全面の意識 (家庭科) ・自らの体験から学習内容を理解し活用したり工夫できるようにする。授業を受ける意欲はある。 ・作品製作意欲はあっても技術が伴わない生徒もいる。	(技術) ・Chromebookの活用 ・タイマーの活用 ・保護メガネ着用の徹底。(穴あけ・湯の流し込み) (家庭科) ・自ら考えたり、工夫しようとする時に適切な助言を与えるようにする。 ・生徒間の意見交換や工夫点を考えさせる。	(技術) 年度当初よりChromebookを活用していたこともあり、オンライン授業では様々な学習を展開することができた。タイマー・保護メガネについては確実に活用することができた。 (家庭科) 課題の幼児の玩具製作では実習計画をもとに使用目的に沿った個性と工夫ある作品を完成させた。交流会もして幼児の成長や保育の大切さを理解特に問題なくできた。
外国語(英語)	・近々の未来「4領域」の力を図る試験が登場するがその折には力を発揮できると思う。(英検には特出して数字を伸ばしている。)現行の「読解中心」の試験はやや苦手。	音読、やりとり、即興スピーチをはかる外部テストが早く定着してほしい。	
道徳	・実際の体験的な学習。	・ロールプレイングなどを活用。	・日々の生活の中で他者への配慮を考える場面が多く、自分と他者についてしっかりと考えさせることができた。
総合的な学習の時間	・オリンピック・パラリンピックイヤーということもあり。ピクトグラム・近代五種などの学習に取り組む。 ・SDGsについての学習に取り組む	・新しく課題を設けて学習をすすめる。今年度は、SDGsについての学習に取り組んでいる。	・体験的に社会とのつながりを体験させることができなかった。